

## 渋沢一族と江原芳平

群馬銀行の前身の一つである第三十九国立銀行は、明治11（1878）年第一国立銀行（頭取渋沢栄一）の指導のもと開業されました。中心となった旧前橋士族以外では、最大株主で創業役員でもあった渋沢喜作（栄一の従兄）・作太郎父子、他に江原芳平・下村善太郎など旧前橋藩御用商人らが名を連ねていました。江原芳平と渋沢一族との関わりは、遅くともこの時まで遡ります。

江原芳平は、明治19年下村が生糸暴落で打撃を受けると、最大株主となり、明治24年頭取になります。大正7（1917）年、同行と自身が社長であった上毛物産銀行（前身は上毛物産会社）が合併し、第一次群馬銀行ができた後も頭取の地位にありました。

## ⑧〔江原芳平宛の渋沢栄一書簡〕

大正4（1914）年1月19日

これは、大正4年の衆議院議員総選挙に際し、前橋から大隈重信首相の養子信常が、大隈伯後援会から出馬した際の舞台裏を語る重要史料です。渋沢栄一自身は、政党には関わらない姿勢でしたが、大隈信常からの依頼で、今回は特別に長年懇意にしていた江原に対し信常への支援を頼むことなどが書かれています。選挙の結果、立憲政友会の竹越与三郎が落選し、大隈信常が当選しました。なお関連して大隈信常・大浦兼武・竹富時敏から江原への書簡も、江原家文書に残されています。

前橋市・江原毅家文書 P0113 No.1097-1

『渋沢栄一日記』（渋沢子爵家所蔵）

明治三十五年（一九〇二）

一月十六日

午前十時朝食ヲ畢（おわ）リ兜町事務《所脱》ニ出勤シ、昨日処理シ残リタル事務ヲ弁ス、**渋沢喜作・江原芳平外二人来リテ、三十九銀行ノコトヲ依頼セラル、（中略）**四時第一銀行ニ抵リ重役会ヲ開ク、三十九銀行ヨリノ請求顛末（てんまつ）ヲ披露ス、種々評議ノ末拒絶スヘキコトニ決ス

一月廿八日

四時第一銀行ニ出勤シ三十九銀行ヨリ請願ニ関スル貸金ノコトヲ議ス

一月廿九日

午前九時白金**渋沢喜作及三十九銀行ノ諸氏来会ス、**昨日ノ請願ニ関シ更ニ請フ処アルヲ以テナリ、（中略）午後四時第一銀行ニ出勤シ重役会ヲ開ク、議事畢テ三十九銀行諸氏ニ面会シ（略）

出典

（公財）渋沢栄一記念財団  
『渋沢栄一ダイアリー』





【积文⑧】

(封筒表) 「前橋市新町」

東京市日本橋区兜町二  
江原芳平様 洪澤栄一  
親展

(封筒裏) 「二月十九日」

(本文)  
其後ハ相絶へ御起居も

不二相伺一候得共、賢臺益

御清穆之御義と奉レ賀候

然者頗る唐突之申上

方二相成候も、昨年議會

解散二付、当春ニ於<sup>而</sup>者貴

地方之候補者ハ如何之

御都合ニ相成候哉、頃日来

大隈伯爵、御養嗣たる

信常氏を貴地方之

候補者ニ推薦せられ候

二付、いまた經驗も乏敷

世間之知己も少く候得共、

幸ニ地方有力之後

援者にても有レ之候ハ、奮

発いたし度、就而ハ從來

老生事信常氏とも別

懇ニ致居候關係上、第一ニ

賢臺ニ御意向相伺呉候様

申出有レ之候、元來老生ハ

いつれ之政党とも聊も関

係無レ之、政事界とハ全く

没交渉とも可レ申身柄二付、

右等之請求ニ応シ賢臺

其後ハ相絶へ御起居も  
不二相伺一候得共、賢臺益  
御清穆之御義と奉レ賀候  
然者頗る唐突之申上  
方二相成候も、昨年議會  
解散二付、当春ニ於<sup>而</sup>者貴  
地方之候補者ハ如何之  
御都合ニ相成候哉、頃日来  
大隈伯爵、御養嗣たる  
信常氏を貴地方之  
候補者ニ推薦せられ候  
二付、いまた經驗も乏敷  
世間之知己も少く候得共、  
幸ニ地方有力之後  
援者にても有レ之候ハ、奮  
発いたし度、就而ハ從來  
老生事信常氏とも別  
懇ニ致居候關係上、第一ニ  
賢臺ニ御意向相伺呉候様  
申出有レ之候、元來老生ハ  
いつれ之政党とも聊も関  
係無レ之、政事界とハ全く  
没交渉とも可レ申身柄  
二付、右等之請求ニ  
応シ賢臺

一書差上候も、サニ迷惑  
之事ニ候得共、大隈伯  
之令嗣として御実父たりし  
松浦伯爵御存生中  
より相識り相成居候旁  
敢而一書を以て貴地方之  
御都合相伺候次第ニ御座候  
何卒出来得る義ニ候ハ、  
御助力被ニ成下一候様奉頼候  
右拝願勿ニ如レ此御座候  
不宣

一月十九日

渋澤栄一

江原芳平様

様下

尚し貴方之御模様ニより  
本人直ニ罷出、相願可レ申と  
申居候、但信常氏ハ  
是迄余り世間ニ出候事  
無レ之、真之生無垢之人  
とも可レ申程ニ付、自然御  
逢之場合ニもそれ御  
含申候也

江原芳平様  
様下  
尚し貴方之御模様ニより  
本人直ニ罷出、相願可レ申と  
申居候、但信常氏ハ  
是迄余り世間ニ出候事  
無レ之、真之生無垢之人  
とも可レ申程ニ付、自然御  
逢之場合ニもそれ御  
含申候也

一月十九日  
渋澤栄一  
江原芳平様  
様下  
尚し貴方之御模様ニより  
本人直ニ罷出、相願可レ申と  
申居候、但信常氏ハ  
是迄余り世間ニ出候事  
無レ之、真之生無垢之人  
とも可レ申程ニ付、自然御  
逢之場合ニもそれ御  
含申候也